

子どもの権利ポスター展

札幌市では、子どもが幸せに過ごすことができるまちを目指して、子どもの権利条例の中で毎年11月20日を「さっぽろ子どもの権利の日」とし、子どもの参加型事業の実施など、子どもの権利の理念を積極的に普及啓発することとしています。

市内の子どもから、子どもの権利の理念を伝えるポスターを募集し、「笑顔こそが最高の宝物」、「みんななかよく」、「いじめをなくそう」といった標語入りの作品をたくさんいただきました。その中から、選考委員会及び平成29年度子ども議会議員による投票を経て、今年度は、最優秀賞1作品、優秀賞5作品、奨励賞20作品が、特に優秀な作品として選ばれました。



- ▲左から、
 林川 紗梨夏さん (最優秀賞/札幌東商業高等学校2年)
 石橋 知将さん (優秀賞/前田中央小学校6年)
 今田 涼乃亜さん (優秀賞/札幌東商業高等学校2年)
 吉本 美音さん (優秀賞/札幌平岸高等学校2年)

※豊島 紅実さん(優秀賞/陵陽中学校2年)、
 福田 のぞみさん(優秀賞/陵陽中学校3年)は都合により欠席



最優秀賞

最優秀賞

「子どもの想造力」

林川 紗梨夏さん
札幌東商業高等学校2年

優秀作品は、子どもの権利の日を含む11月17日(金)～23日(木・祝)までの1週間、アリオ札幌2階 ハーベストコートに展示し、19日(日)には同会場で優秀賞以上の受賞者を対象とした表彰式も開催しました。

また、ポスター展開催期間中は「子どもが住みよいまちとはどんなまちか」をテーマに、思い思いに絵やメッセージを書いてパネルに貼っていただく市民参加ブースも設置し、連日多くの方に来場していただきました。

これからも、より多くの市民に「子どもの権利」を身近に感じていただけるよう、積極的な活動を進めていきます。

平成30年度も
7月頃に募集する予定です!
ぜひご家庭等でも
子どもたちにお声掛けください。
ご応募お待ちしております!



子どもがきらりと輝くまちに

子どもの権利 ニュース

The Rights of the Child

第18号
平成30年3月発行

子どもにとって大切な権利
・安心して生きる
・自分らしく生きる
・豊かに育つ
・参加する

「子どもアシストセンター」を知っていますか?

子どもの、保護者の、みんなの心のよりどころ



「子どもの権利条例」に基づいて設置されている「子どもアシストセンター」(札幌市子どもの権利救済機関)は、公的第三者機関として、子どもに関わる様々な相談に幅広く応じています。経験豊富なスタッフによる適切な助言や支援、「救済申立て」などに基づく調査や関係者間の調整を行い、子どもたちを「権利の侵害」から救済するために活動しています。

Q 相談員さんの顔が見えないと不安です...

A 来所相談も受け付けています。土曜日*2にも相談員が常駐していますので、お気軽にお越しください。

Q 私も相談していいの?

A 子ども*1に関するものであれば、あなたからでも相談をお受けします。

匿名でも構いませんし、相談内容が漏れることも絶対にありませんので、安心して相談してくださいね。

平成28年度は、833名から延べ3,515件の相談が寄せられ、うち9割が子ども本人、あるいは、母親からの相談でした。

*1 原則、札幌市内在住の18歳未満(高校3年生等を含む)が対象

*2 受付時間は右図を参照

Q どのように解決するの?

A 「誰が悪いのか」や「白黒をつける」というような対応はいたしません。

悩み苦しんでいる子どものために、関係者が「何がその子にとっての最善なのか」を第一に考え、前向きに対話できるような環境づくりを進めています。

相談だけでは解決に至らない場合などは、必要に応じて、「関係機関との調整活動」を行うこともできます。

Q どんな相談でもいいの?

A 子どもに関するものであれば、どんな相談をいただいても構いません。

友人関係のことや不登校の悩み、親子・兄弟関係のこと、精神的に不安なこと、子どもと教師の関係についての相談が寄せられることが多いです。

もちろん、ほかの相談でもお気軽にお問合せください!

小さな悩みが大きくなる前に、お話ししてみませんか?

【受付時間】

月～金 10:00～20:00
土 10:00～15:00

【電話で相談】

大人用 ☎011-211-3783
子ども専用 ☎0120-66-3783

【会って相談】

中央区南1条東1丁目
大通バスセンタービル1号館6階
※駐車場はありません

【メールで相談】

assist@city.sapporo.jp

【ウェブサイトから相談】

http://www.city.sapporo.jp/kodomo/assist/

発行

札幌市子ども未来局 子ども育成部 子どもの権利推進課
〒060-0051 札幌市中央区南1条東1丁目大通バスセンタービル1号館3階
電話 011-211-2942 ファクス 011-211-2943



ホームページ「子どもの権利のページ」
http://www.city.sapporo.jp/kodomo/kenri/



Eメール
kodomo.kenri@city.sapporo.jp



平成30年(2018年)3月発行

札幌市
02-G01-17-2076
29-2-1295

★出前講座のお申込やご質問等は、裏面の発行者(子どもの権利推進課)までご連絡ください。

さ っ ぽ ろ の ま ち づ く り に 子 ど も の 声 を 届 け よ う !



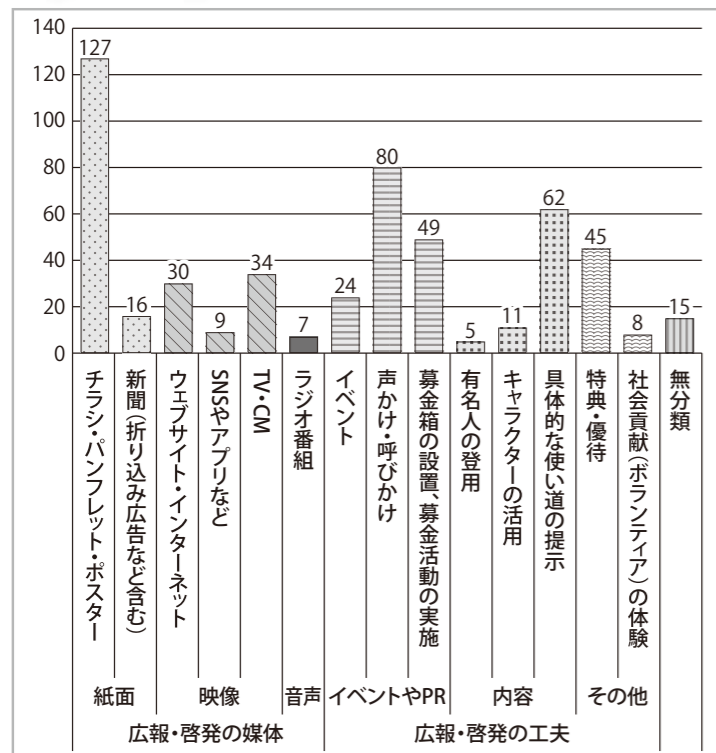
札幌市では「札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例(子どもの権利条例)」に基づき、様々な場面で子どもが意見を言う「子どもの参加」の機会をつくり、まちづくりに子どもの視点を活かす取組を進めています。

今回は、札幌市が学校や区役所などを通して毎年行っている「市政に対する子どもからの提案・意見募集はがき」の取組について、子どもたちから寄せられた提案や意見の内容と、それに対する札幌市の考えをお知らせします。

テーマ 1

さぽーとほっと基金の活用について

272名
522件



例えばこんな意見

- 「さぽーとほっと基金」がどんな支援につながっているかを詳しく書いたパンフレットを配る。
- テレビ、ラジオ、新聞などのマスメディアで紹介したり、芸能人と有名人を紹介してもらう。
- 今の時代だからこそ、もっとSNSを利用して知ってもらう。
- 地域の学生が参加するイベントで、自分たち学生が寄付の呼びかけを行ったりする。
- 札幌市の色々なところに寄付用の箱を設置して、誰でも簡単に寄付できる環境をつくる。
- 「さぽーとほっと基金」に協力してくれた人に抽選でキャッピーのぬいぐるみなどをプレゼントする。
- 地下鉄などでキップを買う際に自分で「定価+基金」の値段を決められる制度にしたい。

※1人が複数の意見を提出しているため、各項目の件数と提出した人数は一致しません。

札幌市の考え方

これまで以上に、多くの方に「さぽーとほっと基金」への寄付にご協力いただくためにはどうしたらよいか、ということについて、たくさんのアイデアをいただき、ありがとうございました。

みなさんから意見が多く寄せられた「チラシ・パンフレット・ポスターの活用」については、マスコットキャラクター「キャッピー」を使用した各配布物を、札幌市内の公共施設や地下鉄駅構内などで配布・掲示しています。

また、「声かけ・呼びかけ」や「具体的な使い道の提

示」については、12月に地下歩行空間で行われるイベントなどで行っているところですが、このような取組をさらに充実させ、寄付がどんなことに使われているのか、もっとみなさんに伝えられるように検討していきたいと思っています。

「さぽーとほっと基金」に集められた寄付は、札幌で行われるたくさんのまちづくり活動を支援しています。また、直接、活動に参加しなくても、寄付によって札幌のまちづくり活動を応援することができるものです。「さぽーとほっと基金」のこともっとたくさんの人に知ってもらい、札幌のまちがより良いまちになっていくよう取り組んでいきたいと思っています。たくさんのご意見、本当にありがとうございました。

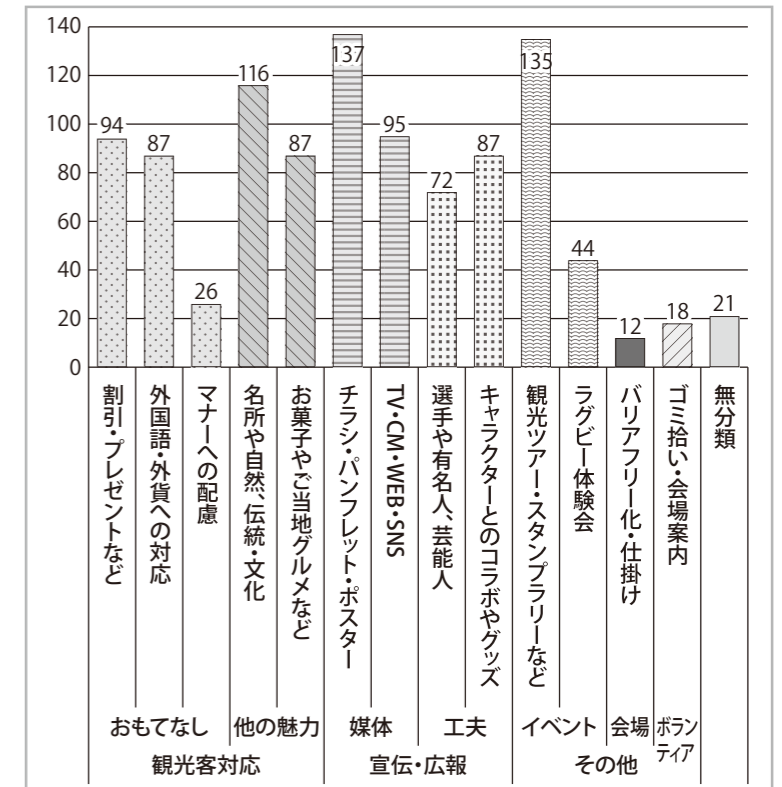
テーマ 2

ラグビーワールドカップ2019の開催に向けて

422名
1,031件

例えばこんな意見

- バスや市電、地下鉄の無料乗車パスがあれば、交通渋滞や日本のお金にとまどう外国人観戦客の悩みが解消されると思う。
- 時計台やテレビ塔、地下歩行空間に選手のパネルやラグビーボール、ユニフォームなどを展示したら、SNSなどで拡散されてより多くの人に見てもらえると思う。
- ラグビーの面白さを体験してもらうために、VR(仮想現実)技術を活用して、自分が実際に試合をしているような映像を流すと良い。
- テレビでCMを流したり、ポスターをかいてラグビーのおもしろポイントを知ってもらう!
- 家族連れで来られるように、会場に子どもを預けられる場所をつくる。
- アジア初を記念して、ステッカーやバッジなどのオリジナルプレゼントを配る。
- 歌舞伎とかのイヤホンガイドのような同時解説してくれるサービスがあれば、ラグビーを良く知らない人でも楽しく観戦できると思う。
- オリンピックみたいに、聖火リレーをした方がいい。
- ゴミ拾いなどのボランティアに参加したい。



※1人が複数の意見を提出しているため、各項目の件数と提出した人数は一致しません。

札幌市の考え方

アジアで初めて開催される「ラグビーワールドカップ」に、たくさんのひとに観戦に来てもらい、楽しんでもらうためにはどんな工夫ができるか、ということについて、たくさんのアイデアをいただき、ありがとうございました。

みなさんからは①「ラグビーを身近に感じられるようにしてほしい」、②「ラグビーのルールがわからない」、③「観戦に訪れた観光客にご当地グルメの提供や名所・文化を紹介したら良い」という意見を多くいただきました。

①について、大会1年前となる今年は、スタンプラリーやクイズ大会など「誰でも気軽に参加できる」イベントを

多く開催していきたいと思っています。

②について、パンフレットやホームページなどを活用し、ラグビーの楽しさやルールをわかりやすく紹介していきたいと考えています。

③について、ラグビーワールドカップ大会中には、札幌市内に「ファンゾーン」と呼ばれるイベント会場を設置します。札幌や世界各国のグルメを堪能できる飲食スペースを設けたり、札幌の観光名所や伝統・文化を発信する場として、ラグビーに馴染みがない人も気軽に楽しめるようにしていきたいと考えています。

みなさんからいただいたアイデアを参考に、大会までの準備を進めていきたいと思っています。

たくさんのご意見、本当にありがとうございました。